

# 加藤 良太郎院長の記事が 日本経済新聞に掲載されました！

私見

卓見

## 総合医拡充で医療体制見直せ

板橋中央総合病院 院長 加藤 良太郎

高齢化が進む日本では複数の病気を抱える患者が多い。こうした患者が病院やクリニックを受診しても、診療科をたらい回しにされたり、やっと受診できても診断すらつかない場合があったりする。日本の医療制度では医師は内科や外科といった科目別に担当が分かれ、さらに臓器別に消化器内科や循環器内科などに細分化されているためだ。つまり、「患者目線」の医療が不十分なのだ。

は心臓に問題があった場合や、整形外科で骨折の手術を受けた患者が肺炎を併発して重症化することも珍しくないからだ。日本専門医機構は2018年に新専門医制度を導入し、患者の心身を診る「総合医」を増やす方針だ。増加ペースは鈍いが、病院に常駐する「ホスピタリスト」と呼ばれる総合医への注目は高まっている。

総合医は臓器ではなく「人を診る」という横軸の視点が不可欠だ。問診や診察といった基本的な技術は重要だが、近年は検査や画像診断などデータ類に頼りすぎる傾向がある。総合医には多様な患者を診て経験を積み、目に見えない暗黙知を読み解く能力が求められる。その育成には軽視されがちな文化や芸術、哲学、倫理といった対人理解を深める教養教育の拡充も欠かせない。

日本でも質の高い医療への社会的需要は高い。総合医の拡充は、縦割りの医療体制を見直す機会になり得る。医師は国民の税金で育成されている。一人ひとりの医師が患者目線で「本当に良い医療とは何か」について自問自答を続けることが求められている。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる  
意見を紹介いたします。〒1000-8066東京都  
千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京  
本社「私見卓見」係またはkaisatsu@nex.nk

kei.comまで。原則10000字程度。住所、氏  
名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイ  
ルはご遠慮ください。趣旨は変えずに手を加え  
ることがあります。電子版にも掲載します。